

コラム

瀬田しようこと

探してみよう、郡山から始めたいこと。

こんにちは、瀬田しようこです。郡山生まれ郡山育ちで、安女（黎明）卒の経済学博士。日本、英国、ニュージーランドの政府・中央銀行で、市場や銀行の政策を作り運営する仕事をしています。10年以上、海外で生活していて見えてきた「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなあ」をまとめています。



第二回 良いところを見つけて活かす仕組み

まずは、前回のおさらいから。

前回は、郡山の一番の財産である「人」が、「みんな活躍」したら、今の倍以上、豊かになれるだけの伸びしろがあることを、データを使って見てみました。そして、「人はいるのに、十分に活躍仕切っていない」という日本の大きすぎる問題を、郡山の「人」という財産を活かして、ちょうどいい大きな郡山から解決できたら、すごくかっこイイですよね、とお話しました。

今回からは、郡山にこっそり存在する、新しいことに興味があって、おもししいことが大好きで、結構たくましい「人」という財産を活かすために、具体的にどういうことができるのかを考えるためのヒントを見ていきましょう。

今回は「良いところを見つけて活かす仕組み」です。

「良いところを見つけて活かす仕組み」って何？

「良いところを見つけて活かす仕組み」は、3つに分解できます。

- 「良い」ところを「見つける」
- 良いところを「活かす」
- 「仕組み」

まず「良い」ところ。これは十人十色です。必要とされるもの・好まれることは、大なり小なり人によってみんな違うので、「良い」と評価されるところも十人十色です。多様性のある社会であればあるほど「良い」の観点も多様です。

そんな多様な受け手の「良い」を満たすためには、やはり多様な「良い」の出し手が必要です。出し手は、自分は何が好きで、何が得意なのかを知って、それを受け手のイイねえに繋げていく必要があります。「良い」ところを「見つける」第一歩は、「自分を知る必要を知る」ところから始まっています。

次に、良いところを「活かす」です。これは、出し手の好きなことや得意なことが、受け手のイイねえに、うまく繋がった時に生まれます。良いところをうまく活かせると、出し手も受け手も嬉しくなります。この嬉しいという感覚が、良いところを活かせた時の感覚です。多様なイイねえの観点があればあるほど、みんなが違うことの優位性も出てきて、それぞれに違う良いところを「活かす」機会も増えていきます。

最後に、良いところを見つけて活かせる「仕組み」です。これは、自分一人から始められる仕組みから、社会としてできる仕組みまで様々です。例えば、お店で良いものに出会えた時に「いいですねえ」と言ってみたり、お気に入りのお店にまた食事に行ってみたりすることは、自分一人からでも始められる仕組みです。これは、ちょっとした日常の行動ですが、受け手の嬉しさを出し手に伝え、次の次元の良いへとの繋げていく力を持っています。また、残念ながら、あまりお客様が来てくれなかったとしても、出し手としては、次にどう変えれば、うまくイイねえに繋がるのかを考える機会になります。こんな循環が「良いところを見つけて活かせる仕組み」です。

では、ここから、私が海外生活の中で見た「良いところを見つけて活かす仕組み」をみてみましょう。

お年玉プラス

自分を知る必要は、子供のうちから少しづつ楽しく身についていくようです。

そのための仕組みの一つが、資金集め（ファンド・レイジング）です。例えば、学校や課外活動で追加の資金が必要な時、子供たちは資金集めに参加したり、主体的に資金集めをしたります。多くの場合、何かを売って資金を集めます。

このとき、子供たちは、どういうものが売れるのだろうか、自分は何ができるのだろうかを考えて計画をたてます。できることは様々で、お菓子を焼いたベイク・セールのこともあります。チヨコレートを安く仕入れて少し高く売ることもあれば、携帯型のガスグリルを使ってホットドックを売ることもあります。売る場所も、学校の敷地内のこともあります。駅やスーパーの入口など人の集まる場所のこともあります。

こういった資金集めは日常的に行われているので、そんな行動が板についた子供たちは、ときどき小さなグループを作り、主体的にお小遣い集めをすることもあります。そんな時は、グループの特性がとてもよく現れます。小物やアクセサリーを作り、不要になったおもちゃや本を売ったりと、実際に様々です。

自分たちの用意したものが売れると、とても嬉しいようです。また、小さなお店では、売れると思ったものが売れなかったり、売れないと思ったものが売れたりします。子供たちは、お客様の反応とともに、次回は何を売るか、売上金をお友達とどう使うか等々、閉店後も楽しい作戦会議をします。

このような経験は、お年玉やお小遣いもらうことと比べると、子供なりに自分を知る必要を知ることができます。プラスαの効果がありそうだなあと、私は見ています。

郡山でも、子供マルシェ¹がありましたよね。子供たちは、次に繋がるいい経験ができたのではないかなど見ていました。

繰り返し繰り返し体得

大人になっても、自分を知る必要を知る活動は続きます。

そうしている仕組みの一つは、ジョブ型と呼ばれる雇用方法です。この雇用方法では、企業が必要な職務内容をあらかじめ明らかにして、その職務ができる人を採用します。人を採用してから配属を決める雇用方法とは異なり、会社と会社の垣根を超えて、人と職務が繋がっていきます。

この仕組みの中では、自分は何が好きで、何が得意で、何がしたいのかを常に考えます。履歴書は、自分の広告です。自分のしたい仕事では、どういった技能が求められ、自分はそれにどう貢献できるのかを考え、その貢献を買ってくれる雇用者のイイねえに繋げていきます。つまり、自分の「良い」ところを見つけて、主体的に活かしていく。うまくいく時も、うまくいかない時もあります。うまくいかなかった時は、ダメから学びます。ジョブ型雇用では、自分で応募しない限り異動も昇進もない、常に自分が主体です。

このような会社と会社の垣根を超えて、人と職務を繋げていく循環が、私には「良いところを見つけて活かせる仕組み」のように見えます。

中学生くらいになると、自分の広告である履歴書を書く練習が始まります。生徒会へ立候補する時や奨学金に応募する時など、毎回毎回、自分は何をしたいのか、何ができるどう貢献できるのか、生徒会や奨学金を得ることでできる経験をどう自分の人生に活かしていきたいのかを、考えてまとめることができます。生徒会に選ばれたり、奨学金が取れたりすると、嬉しいですよね。でも、ダメでも、次の機会に向けて、そこから学べば大丈夫。

1 子供マルシェ <https://youtu.be/dzj9qFaqXxk?si=XgJqSY5fym66r6fq>

ジョブ型雇用を実現するには、社会として動く必要があるので、少しハードルは高いかもしれません、自分のできる範囲から、自分の良いところを主体的に見つけて、必要とする人のイイねえに繋げる行動をして、自分の周りで良いことを見つけたら、イイねえと伝えてみるのは、いかがでしょうか。

おまけ

今日は6月28日金曜日、ニュージーランドの原住民であるマオリのお正月。祝日です。「マタリキ」と呼ばれる星の集まりが、日の出前に、地平線の上に現れた日がお正月になります。南半球にあるニュージーランドは、今、冬の真っ只中です。郡山の暑い暑い夏が、やっぱりイイ！！

他の回へのリンク

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/34/140355.html>